

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 奈良市立都跡小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒630-8014

奈良市四条大路5-6-1

E-mail miato-e@naracity.ed.jp

Website http://www.naracity.ed.jp/ele01/index.cfm/12.html

幼児児童生徒数 男子 283 名 女子 266 名 合計 549 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

校区に3つの世界遺産(平城宮跡・薬師寺・唐招提寺)を有する、稀有な小学校である当校は、「世界遺産に学ぶ」を活動テーマとして、ESDを特に「世代間の公正」と捉え、ESDの実践を通して、地域に一員であるとの態度の育成を目標とした。

具体的には、世界・地域遺産を「しる」・「わかる」・「ふかめる」を柱に、①「しる」学習、②「わかる学習」、③「ふかめる」学習を行った。

### ① 地域・世界遺産を「しる」学習

「しる」学習とは、小学1～3年生を対象にした学びである。1・2年生は主に生活科で、3年生は主に総合的な学習の時間と社会科で行う。

1・2年生は、平城宮跡にて虫取りや凧揚げをしたり、校区探検で3つの世界遺産を訪れたり、世界遺産は身近な存在であることを、体験をもって気付かせたい。

3年生社会科の、最初の小単元は校区を扱ったの学習である。そこで、総合の時間を活用し、校区探検として世界遺産の見学に行った。2年生との生活科と区別するべく、「世界遺産があるから交通の便が良い」「世界遺産の周りには人が多いから店がある」といった多面的な学びとなるように配慮した。さらに社会科では、年中行事について学ぶ小単元もあるが、それについても総合とつなげ、E S Dの学習とした。具体的には、校区の3つの世界遺産で続けられている年中行事をそれぞれ5つずつ、合計15の年中行事を調べ、残している人の努力や思い、願いに触れるようにした。そして、年中行事は自ずと残っているのではなく、人が努力することによって残されていることに気付かせるようにした。

## ② 地域・世界遺産を「わかる」学習

「わかる」学習とは、小学4・5年生を対象にした学びである。

4年生では、社会科の「地域の発展に尽くした人々」の小単元における学び方を活用して、校区にある世界遺産における、いわゆる「中興の祖」に目を向ける。平城宮跡では棚田嘉十郎、薬師寺では高田後胤である。そして、彼らの地域や遺産に対する思いに気付かせるようにした。

5年生では、奈良市が導入している「世界遺産学習現地学習」という取り組みがある、これは、奈良市内の校区外の世界遺産を見学に行くものである。この学びを含めた、これまで世界遺産で学んできた学び方や内容を、世界遺産ではない地域の小さな神社や寺に転用する。学び方や内容とはつまり、残され方や、年中行事、人の思いや願い等である。「世代間の公正」の、さらなる一般化をねらったものである。

## ③ 地域・世界遺産を「ふかめる」学習

6年生では、これまでの都跡地区や奈良市の枠から外れ、平和学習を軸に学習をふかめる。これまでは多面的な学習に重きを置いていたが、6年生では多角的に、様々な立場から世界遺産や地域遺産を見れることをねらう。具体的には、修学旅行で訪れる広島原爆ドームや、厳島神社について、日本の立場から、アメリカの立場から、源氏の立場から、平氏の立場から、保存に携わる立場から、地域の発展の立場から、「負の遺産」の立場から、といったように、様々な立場から世界遺産にアプローチできるようにする。さらに3学期には、「ありがとう都跡」と銘打った単元において、これまでお世話になった都跡地区について、自分にできることで恩返しをする、行動化をねらった学びも取り入れる。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

社会科教科書 ゲストティーチャーによる話 平城宮跡・薬師寺・唐招提寺のHP
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

小学校6学年、さらには中学3年生までの9学年の系統性を設定し、指導にあたっている。

添付資料1を参照にされたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学期に1回、小中合同の研修会をもち、意見交換をおこなっている。それに加え、小学校では放課後に「みあと研修会」と称する自主的な勉強会を月に1回開催している。29年度3月には、日本ESD学会会長の長友恒人先生をお呼びして、ESDに関する研修を開催した。また、ESDについて研究している2名の教諭が、ESDを紹介、解説、そして総合の取り組みをESDに位置付けて紹介した回もあった。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

下記の⑥と重複するが、本校の2名の教員が、奈良教育大学で開催されているESD連続セミナーに毎月参加しており、その場で、自身の取り組みについて、大学教員や小・中の教員から、意見をもらい、活動をより良いものにしようとしている。

ESDに明るい教員が2名いる一方で、課題としては、ESDが校内で広まっているとはいえずらい点である。ESDの裾野を広げるためにも、今後とも、ESDの普及に努めたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

発表の機会が得られたため、本校の教員2名(三木教諭・山方教諭)が実践報告、さらには考察を加えることで、実践研究として、奈良教育大学の実践集録に掲載された。添付資料2が三木実践、添付資料3が山方実践である。

また、効果として、本校の年間指導計画に付け加えることで、実践を校内で継続していけるような態勢にしている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

上記の⑤とも重なるが、奈良教育大学での実践集録に、本校2名の指導案が掲載された。それは、その2名が継続して、奈良教育大学が主催するESD連続セミナーに参加し、ESDの理論研修、指導案の検討があったためである。本年は、2名の継続した研究が認められ、2名ともがESDマスターに認定された。

さらに、筆者(山方)は、きんき環境館が主催するフォーラムにて、実践を発表した。添付資料4を参考にされたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

筆者(山方)は本年度、奈良市教育委員会より推薦を受け、「日本教職員韓国派遣プログラム」に参加した。プログラム中、ユネスコスクールを3校訪れ、ESDの取り組みについて意見交換をした。ここでは、日本のプログラム参加者と、韓国のユネスコスクールとの交流は当然のことながら、日本のプログラム参加者同士での意見交換も行われた。筆者がプログラムを報告する機会を設けることで、現地での交流を共有できた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本校は、校区に3つの世界遺産（平城宮跡・薬師寺・唐招提寺）を有する、稀有な小学校である。地域住人も、世界遺産に対して誇りをもっており、世界遺産の現地学習となると、快くボランティアを引き受けてくれる。そこで、小学校が世界遺産について学ぶことで、小学校と世界遺産はもとより、小学校と地域住民を「つなげる」ことにつながっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成27年度に開催された小中一貫教育全国サミットにおいて、本校は会場校として、研究報告と授業公開の機会を得た。その際に、9年間を見据えた学びの系統性を明らかにした。そのこともあり現在は、当時構想したものに微調整を加えて、年々改良している。  
よって、活動計画は、添付資料1で示したものと同様になる。